

## Differences in the genetic backgrounds of patients with alcoholic liver disease and non-alcoholic fatty liver disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 国子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032791">https://doi.org/10.20780/00032791</a>

## 主論文の要旨

Differences in the genetic backgrounds of patients with alcoholic liver disease and non-alcoholic fatty liver disease (アルコール性肝疾患患者と非アルコール性脂肪性肝疾患患者における遺伝的背景の違い)

東京女子医科大学消化器内科学教室  
(指導：徳重克年教授)

山本 国子

Journal of gastroenterology and hepatology  
第3巻 第1号 17頁～24頁 (2018年10月17日発行) に掲載

### 【要 旨】

アルコール性肝疾患 (ALD) および非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) 患者において、疾患の発症と進行、肝細胞癌 (HCC) に遺伝的背景が関与するか、一塩基多型 (SNP) の頻度を比較検討した。臨床病理学的に脂肪性肝疾患と診断した 318 例 (ALD118 例、NAFLD200 例) を対象とし、発症・進展に関与する可能性がある遺伝的背景を検討した。検討遺伝子は、アルコール代謝:ADH1B、ALDH2、脂質代謝:MTP、PPARG2、糖代謝:KCNQ1、KCNJ15、肥満:ADRB3、TLR4、脂肪肝:PNPLA3 である。それぞれでアレル頻度を①ALD と NAFLD、②非肝硬変 (n=213) と肝硬変 (n=105)、③HCC の有無 (有 n=59、無 n=259) 別に比較した。

結果、①ADH1B (GG 型) と ALDH2 (GG 型) の頻度は ALD 患者で有意に高率、MTP (GG 型) は NAFLD 患者で有意に高率であった ( $p < 0.01$ )。②非肝硬変と肝硬変の比較では、KCNQ1 (TT 型) と ADRB3 (TT 型) は ALD 関連肝硬変で有意に高率 ( $p = 0.019$ 、 $p = 0.048$ )、PNPLA3 (GG/GC 型) は NAFLD 関連肝硬変で有意に高率であった ( $p < 0.01$ )。③HCC の有無の比較では、KCNQ1 (TT 型) は ALD および NAFLD-HCC で有意に高率 ( $p = 0.032$ 、 $p < 0.01$ )、KCNJ15 (GG 型) は ALD-HCC で有意に高率 ( $p < 0.01$ )、PNPLA3 (GG/GC 型) は NAFLD-HCC で有意に高率であった ( $p = 0.045$ )。

ALD・NAFLD の発症には異なる遺伝的背景が関与し、進展には共通および非共通のいくつかの遺伝的背景が関与していた。